

第6回能登半島地震現地ボランティア

参加学生による報告会

～被災地の今と、学生ボランティアの体験談～

日程：6月25日(水)15:20～16:00

場所：西宮上ヶ原キャンパス H号館302号教室

申込：不要 ▶ 直接会場へお越しください！

どなたでもご参加大歓迎です🌟



＼ こんな方はぜひお越しください！ ／

災害ボランティア
に関心がある方

大学生のうちに
ボランティアを
してみたい方

たまたま予定が
空いている方

石川県出身の方



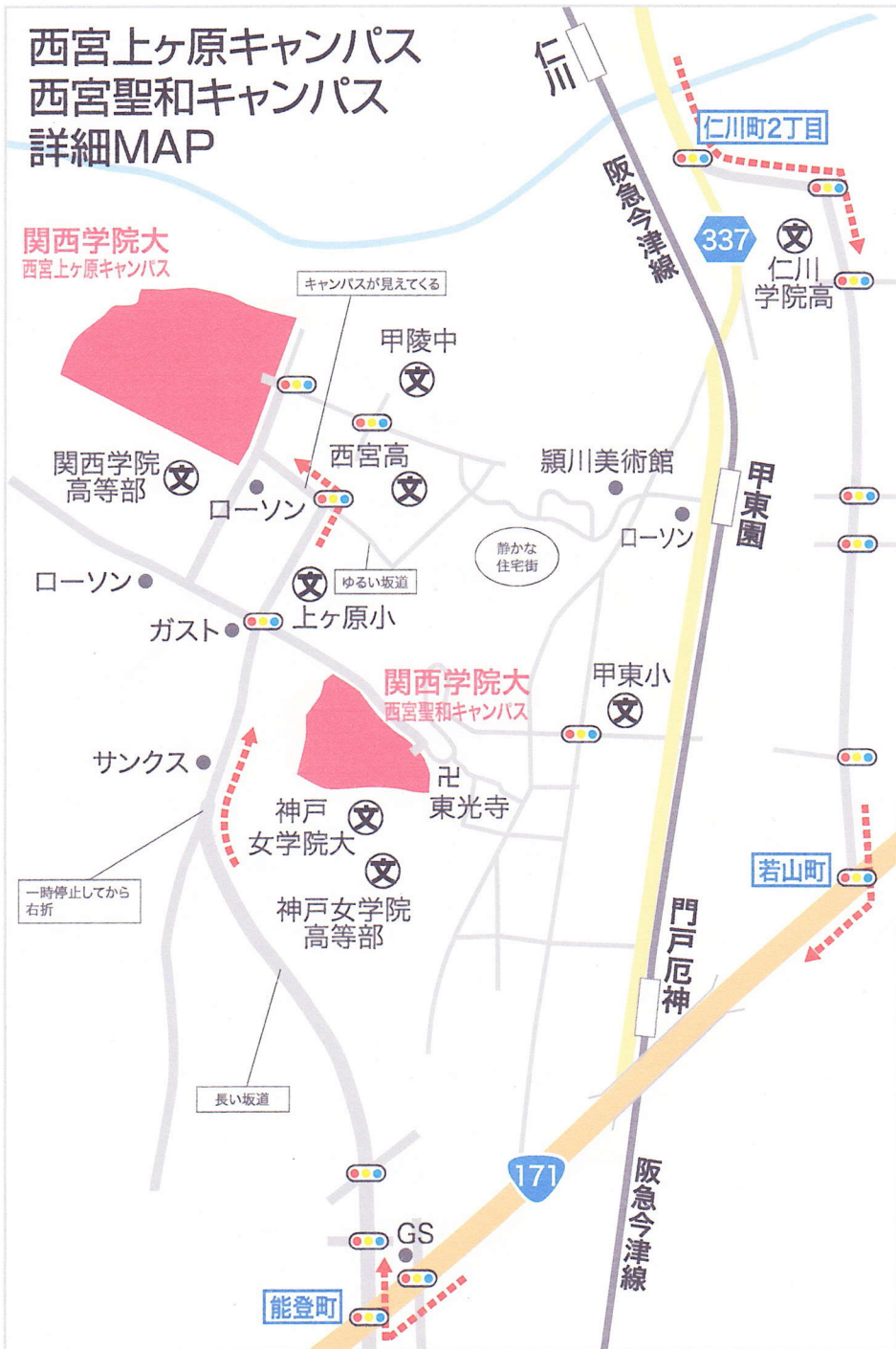
内容

関西学院大学では、2024年1月1日に発生した能登半島地震へのボランティア活動を継続して行っています。今回は、第6回現地ボランティア（6/7（土）～8（日））に参加した学生による報告会を開催します。

活動先である石川県七尾市の状況、そして参加者の学生が活動した内容と活動を通じて感じたこと、交流ボランティアの意義、私たちにできることは？などを報告し、皆さんと考えるきっかけにしたいと思います。

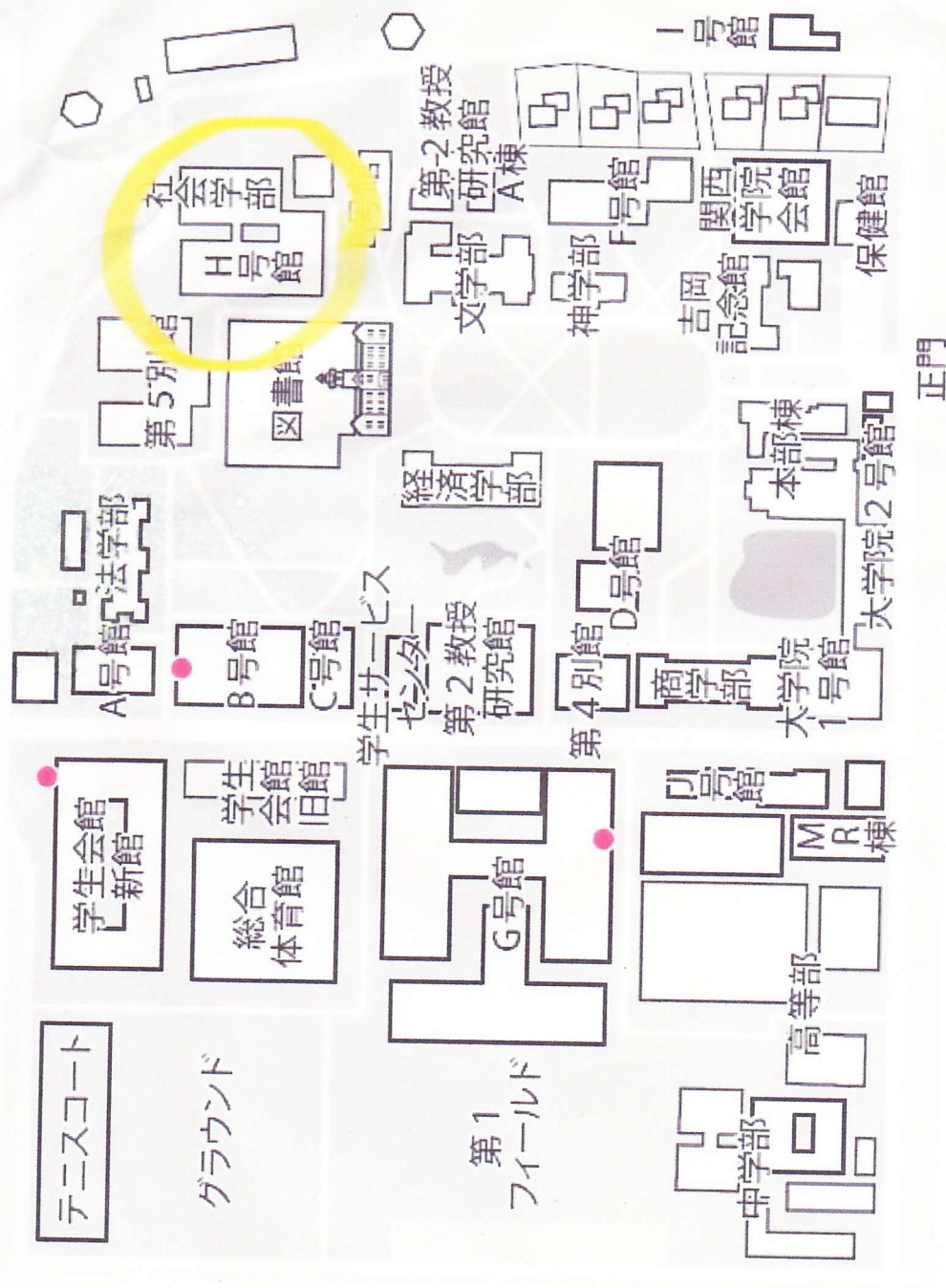
西宮上ヶ原キャンパス
西宮聖和キャンパス
詳細MAP

関西学院大
西宮上ヶ原キャンパス



■西宮上ヶ原キャンパス





第8回

能登半島地震現地ボランティア

参加者募集【予告編】



活動日時

10月11日(土)～12日(日)

活動場所

石川県七尾市

現地ボランティアについて

2024年1月1日に発生した能登半島地震は、甚大な被害をもたらしました。昨年度の現地ボランティアに参加した学生から「継続した支援が必要だ」という声が多く上がったことを受けて、ヒューマン・サービス支援室では、有志の大学生・大学院生・短大生とともに、今年度も現地でのボランティア活動を行うことにしました。被災地と、被災者の方々の一日でも早い復興につながることを願って、1人ひとりが考え、被災者に寄り添った活動を行っていきます。

交流を中心とした
ボランティアです！

募集開始は
7/2を予定
kwicの「その他」を
ご確認ください！

募集概要

- ☐ 参加費 3,400円
- ☐ 募集人数 20人 ※応募者多数の場合は抽選
- ☐ 応募締切 9月4日(木) 11:00
- ☐ 活動内容(予定):
 - 仮設住宅や民家への戸別訪問
 - 交流イベントの開催
 - 現地住民とのワークショップ 等

【事前研修会】

第1回：9月19日(金) 13:00～15:00
第2回：9月25日(木) 19:00～21:00
場所：西宮上ヶ原キャンパス H号館302教室

【事後振り返り会】

日時：10月17日(金) 19:00～21:00
場所：西宮上ヶ原キャンパス H号館302教室

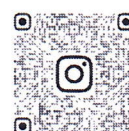
その他にもいくつか応募条件があります。

募集要項や誓約書を必ず確認の上、応募をご検討ください。

【主催】関西学院大学

【お問い合わせ】ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室

☎0798-54-6061 ✉kg.hssso.info@kwansei.ac.jp



関西学院大学

能登半島でのボランティア募集情報一覧

【日程が確定している活動】

・ 第 32 次足湯ボランティア隊

活動期間：7/19（土）～22（火）

締切：7/4（金）

主催：被災地 NGO 協働センター

・ 輪島市でのボランティア活動

活動期間：7/27（日）夜～29（火）夜

締切：6/29（日）

主催：NPO 法人 I. I7 希望の灯り

・ 輪島市キリコ祭りボランティアバス

活動期間：8/16（土）～17（日）

締切：すでに定員に達していますが、若干名は受入検討いただけるとのこと

少しでも関心がある方は本日中に岡までお声がけください

主催：NPO 法人 I. I7 希望の灯り

【随時募集の活動】

①足湯隊

別紙参照

②NPO 法人 I. I7 希望の灯り

別紙参照

③民間災害ボランティアセンター おらっちゃ七尾



④石川県災害ボランティアセンターによる募集



⑤各市町村、NPO 団体等による募集



以上

2024年度 関西学院大学 能登半島地震現地ボランティア活動報告

なぜ、現地ボランティアに取り組むのか？

私たちの活動の目的は、被災地に元気を届けることだけではなく、参加学生が活動を通して自分たちの専攻に関わる学びを得ることと、学内に関心を広げることが目的としています。参加学生は、被災や被災者の「現実」を知り、振り返りを通じて自分が学ぶ学問と実践のつながりを考えるきっかけを述べていました。

今回の活動の目的はさらに、関心が薄くなってきている能登半島地震の現状を活動に参加した学生たちから伝えてもらうことで、一人でも多くの学生・教職員が被災地や被災者に思いをはせ、支援していく雰囲気や大学内で広げていきたいというものです。これからさらに多くの方々が、参加学生たちの声に触れられるよう、2025年度も継続して活動を行っていきます。



ヒューマン・サービス
支援室長（社会学部教授）

せき よしひろ
関 嘉寛

活動概要

2024年1月1日に発生した能登半島地震を受け、
関西学院大学は「募金活動」と「現地ボランティア活動」を実施しました。

【募金活動】

2023年度卒業式・2024年度入学式にて学生36名で呼びかけた募金活動では585,862円を集めました。
集めた寄付金は宗教活動委員会を通じて
日本赤十字社（義援金）・NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク（支援金）に送付しました。

【現地ボランティア】

2024年5月からは、5回にわたって石川県七尾市中島町を中心に訪問。
学生延べ72名、教員3名が支援にあたり、現地の仮設住宅周辺にある集会所での交流や
コミュニティセンターでの地域交流、水や塩分タブレットを届けるなどのボランティア活動を実施しました。
今後の展望としては、活動の記録を残し、多くの学生・教職員に活動内容を知ってもらうために
SNSなどの広報媒体を通じて積極的に発信をすることを考えています。

場所：石川県七尾市

- ①中島地区第1団地（仮設住宅）／新町地域
- ②新町会館（自治会の集会所）
- ③中島地区コミュニティセンター豊川分館 など

宿泊：国立能登青少年交流の家

- 内容：
- ①仮設住宅への戸別訪問
 - ②交流イベント
 - ③地域住民とのワークショップ
地域行事への参加 など

連携：NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク、のと復興人足隊
西宮市社会福祉協議会、豊川地域協議会

協力：株式会社 高山堂



発行：ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室

電話 0798-54-6061

メール kg.hssso.info@kwansei.ac.jp



活動の詳細や
現在の活動状況などは
HP・SNSより最新情報をチェック！

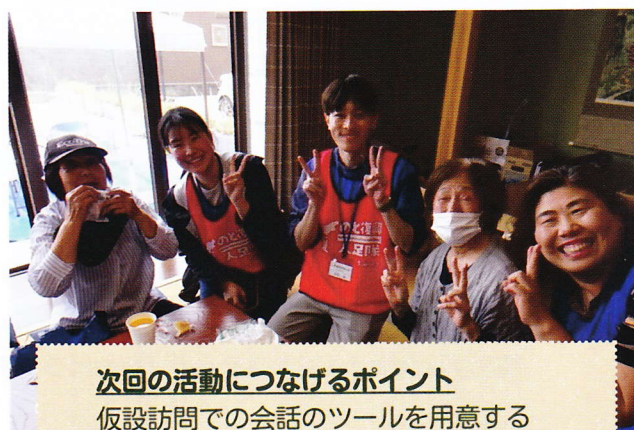
第1回 2024/ 5/25(土)~5/26(日) 学生12名、教員1名

①戸別訪問

新町会館でのイベントのお知らせも兼ねて、日常のお困りごとなどをお聞きしました。**たわいもない会話がみなさんの心をほぐす**ことに繋がるということを学んだ一方で、**支援疲れ**がみえる方もおられ、ボランティアの在り方について考えさせられました。

②交流イベント（新町会館）

新町地域の住民の方々と仮設住宅の方々との茶話会や子どもたちと遊んだり、交流の機会を作ることで、**コミュニティ形成の一助となる**必要があることを実感しました。



次回の活動につなげるポイント
仮設訪問での会話のツールを用意する

第2回 2024/ 6/22(土)~6/23(日) 学生12名、教員2名

①戸別訪問

飲料水や手作りうちわをお届けしたことから会話が広がりました。「汚いような気がして水道水を飲むことに抵抗があるので助かる」「夏の暑さが不安」など**ストレスのかかる暮らし**を強いられていることを痛感しました。

②交流イベント（新町会館）

地域の皆さん同士の会話が生まれるように心がけました。一方で、**男性のイベント参加者が少なく、チラシやイベントの内容について工夫**ができると良いのではないかと提案があがりました。



次回の活動につなげるポイント
男性参加者を増やすためイベントを工夫する

第5回 2025/ 2/14(金)~2/16(日) 学生19名

②交流イベント（新町会館）

新町会館での交流イベントでは、**学生自身が考えた**「巨大すごろく」「お菓子デコレーション」等で過去最高の参加人数で盛り上がりました。雪かきなどを少しお手伝いしましたが、冬の暮らしの困難さも感じました。

③交流イベント・ワークショップ

地域行事『三世代交流会』に参加して、輪投げ大会などで交流を深めました。昼食のおでんづくりも豊川地区の女性会の皆さんと行い、約100名でおでんを食べながら交流しました。また、前回に引き続きワークショップを行い、「豊川地域のいいところさがし」を通じて**祭りや豊かな自然など魅力**を沢山見つけることができました。



次回の活動につなげるポイント
一緒に企画を考えることなどを通じて、
現地に行く前から学生メンバーの仲を深める

現地ボランティア報告会 2025/ 3/4(火)

1年間を振り返り、学生ボランティアが被災地支援に関わる意義や、活動を通じて見てきた**成果や課題**を共有するとともに、参加者の皆さんとも、**私たちにできることを共に考える**機会として開催しました。

活動報告やパネルディスカッションを通じて学生自身が活動の経験や意義、現地の状況を発信した後、「能登半島地震から考える 私たちができることは？」というテーマで参加者の皆さんも交えて意見交換をしました。

参加者からは、「学生の取り組みを聞いてとても刺激を受けた。熱い思いや行動力に敬意を表するとともに、**自分も関心を寄せ続けたい**と思った。」などの感想が述べられました。



【意見交換で出た話題・アイデア】

- ・能登に触れる機会を作り、発信し続ける
- ・現地活動している人を西宮に住んでいる人たちで応援する
- ・地域づくり、防災でのつながりなどを西宮市内でも持つ

